

電気通信大学 平成17年度シラバス

授業科目名	法学A		
英文授業科目名	Jurisprudence A		
開講年度	2005年度	開講年次	1、2年次
開講学期	1、3学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	田中 ひとみ		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ

【主題および達成目標】
<p>(a) 主題：「社会あるところ法あり」と云われる。我々はもはや法的社会の真っ只中にあり、そこから逃れることはできない。秩序正しい社会の形成のために個々の人間の様々な財、地位、名誉を保護し、人々の幸福ならびに救済を図ることは、国家の基本とすべきものであろう。より良い共同体を目指して適正な法的手続がどこにおいても問われ、実現されなければならない。法もまた日々発展しており、現代社会における法の使命は日々増大してゆく。そこにおいては法の目的を探求しつつ、合理的な法解釈を行ってゆくことが不可避であり、この点でも法学を学ぶことは価値がある。特に憲法は人権と統治から成る、国家の基本法である。法の中核であるから是非学んで欲しい。また、本授業ではプリントを多数配布し、具体的な問題に即して、検討することも学んでゆきたい。</p> <p>(b) 達成目標：個々の事例において、法律用語により、法的な論理を駆使しつつ、法的分析・法的判断・法的な思考を行うことを達成目標とする。正義が行われるべきこと、そしてイノベーションと人々の救済が行われるべきことに思いを寄せて頂きたい。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

電気通信大学 平成17年度シラバス

【教科書等】

教科書：現代法学入門〔第3版補訂版〕伊藤正己・加藤一郎編、有斐閣

【授業内容とその進め方】

(a)授業内容

第1～2回 法解釈とは何か

第3～4回 法とは何か

第5～9回 憲法(人権・統治)

第10回 中間試験

第11～14回 民法(財産編)

第15回 期末試験

(b)授業の進め方

プリントを多数利用したい。実際のケース(事例)で結論(判決)の妥当性を自ら検討されたい。小型の六法を毎回持参されたい。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a)評価方法

中間試験と期末試験の総合評価を行う。

中間試験 50%

期末試験 50%

【オフィスアワー：授業相談】

授業終了後に応じる。

【学生へのメッセージ】

適正・公平なリーガル・マインドを身につけていただきたい。

【その他】